

『猫』 作：ポチ子

『猫』 作…ポチ子

猫に生まれたら、

家の前の大きな道路で轢かれるかもしれないし、

鳥に生まれたら、

羽が折れて、そのまま地面で蹲るしかないかもしれない。

別の国に生まれたら、

生まれたことも知られずに生きるかもしれないし、

お金持ちに生まれたら、

お前はバカだと、家族から罵られるかもしれない。

男に生まれたら、

涙も流せないし、

女に生まれたら、

強くあつてはいけない。

なにかに変われば、

今の現状がすべてよくなる気がして、

言葉にしてみるけど。

きっと他人の不幸を軽く見て生きているだけだ。

人の苦しみを知らずに、

自分の苦しみだけ理解してもらいたいだなんて傲慢だ。

— 終わり —